

甲状腺癌(thyroid cancer)

・ 甲状腺癌の年間罹患患者数は18,600人と推計されている。組織型分類には大別して分化癌、未分化癌、髄様癌があり、90%以上を分化癌が占める。未分化癌、髄様癌は全体の1-2%とされる。また、分化癌ではRET融合遺伝子が10-20%の頻度で認められ、髄様癌ではRET遺伝子変異が60%以上の患者で認められることが報告されている。

・ 各癌種について、根治切除不能の進行・再発状態となった場合(分化癌については更に、放射性ヨウ素内用療法不応の場合)に分子標的薬の適応となる。分化癌ではレンパチニブとソラフェニブが、未分化癌ではレンパチニブが、髄様癌ではバンデタニブ、レンパチニブ、ソラフェニブがそれぞれ用いられている。

・ セルペルカチニブ(レットヴィモ)は分子標的薬の一種であり、RET融合遺伝子又はRET遺伝子変異陽性の場合に各癌種に用いることができる。

図: 分子標的薬が適応となる場合の甲状腺癌の治療概略(甲状腺腫瘍診療ガイドライン2018を参考に作成)

